

# 湯辺田・下柿瀬遺跡

福岡県文化財調査報告書 第281集

2022

九州歴史資料館



# 湯辺田・下柿瀬遺跡

福岡県文化財調査報告書 第281集

2022

九州歴史資料館



# 序

本報告は、一般県道湯辺田八女線交差点改良工事に先立って令和3年度に実施した、八女市黒木町湯辺田所在の湯辺田・下柿瀬遺跡の埋蔵文化財発掘調査の記録です。

八女市黒木町は、「黒木のフジ」「五條家文書・附八幡大菩薩旗」「八女市黒木重要伝統的建造物群保存地区」をはじめとする、多彩で質の高い文化財に恵まれており、山地にあって豊かな自然と同時に歴史・文化が育まれてきた地域です。

今回の調査では、奈良・平安時代の利水施設の一部を確認することが出来ました。これまで十分に把握されていなかったこの地域の古代の状況は、近年の発掘調査によって、僅かずつではありますが明らかになってきています。

本書が教育、研究とともに、文化財愛護思想の普及の一助となれば幸いです。

令和4年10月31日

九州歴史資料館

館長 城戸 秀明

# 例 言

1. 本書は、一般県道湯辺田八女線交差点改良事業にともなって令和3年度に発掘調査を実施した、八女市黒木町湯辺田所在の湯辺田・下柿瀬遺跡の調査の記録である。
2. 発掘調査と整理報告は、八女県土整備事務所の執行委任を受け、九州歴史資料館が実施した。
3. 本書に掲載した遺構写真および遺物写真の撮影は担当者が行った。
4. 本書に掲載した遺構図の作成は調査担当者が行い、発掘作業員が補助した。
5. 出土遺物の整理作業は、九州歴史資料館において実施した。
6. 出土遺物および図面・写真等の記録類は、九州歴史資料館において保管する。
7. 本書に使用した周辺遺跡分布図は国土交通省国土地理院発行の1/50,000地形図「久留米」を加筆改変したものである。また、本書に掲載した調査範囲図は、朝倉県土整備事務所が作成した1/500地形図を加筆改変したものである。本書で使用する方位は、世界測地系による座標北である。
8. 本書の執筆と編集は小川泰樹が担当した。

# 本文目次

I	はじめに	1
II	位置と環境	2
III	調査の内容	5
IV	おわりに	10

# 図版目次

図版 1	1	湯辺田・下柿瀬遺跡全景（北西から）
	2	1号溝（北西から）
	3	1号溝北西半部（北西から）
図版 2	1	1号溝南東半部（北西から）
	2	1号溝北西端部土層（南西から）
	3	1号溝南半部土層（南東から）
図版 3	1	1号溝南東端部土層（北から）
	2	出土遺物

# 挿図目次

第1図	八女市の位置	1
第2図	周辺遺跡分布図（1/50,000）	2
第3図	調査範囲図（1/1,000）	3
第4図	遺構配置図（1/300）	4
第5図	1号溝実測図①（1/100）、土層実測図（1/40）	6
第6図	1号溝実測図②（1/100）、土層実測図（1/40）	7
第7図	1号溝出土遺物実測図（1/3）	8
第8図	遺構検出面出土遺物実測図（1/3、15は1/2）	9



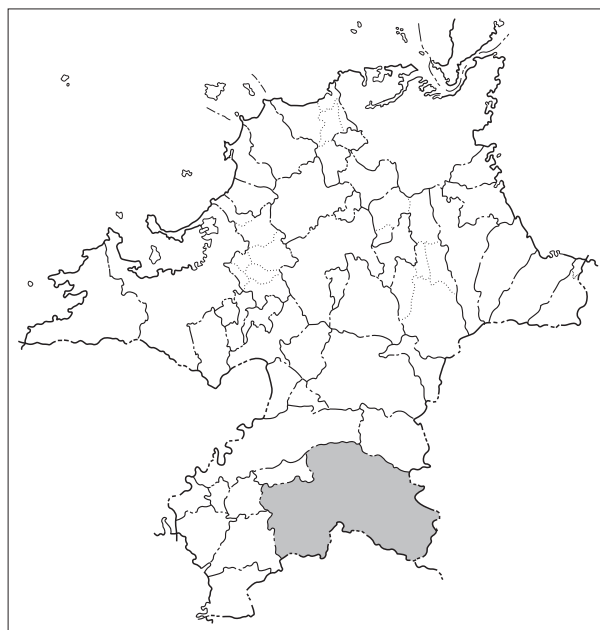


# I はじめに

## 1. 調査に至る経緯

県道湯辺田八女線の交差点改良事業に伴う埋蔵文化財の対応について、令和2年(2020)10月13日に、福岡県八女県土整備事務所、八女市教育委員会、福岡県教育庁教育総務部文化財保護課、九州歴史資料館の4者で協議を行い、令和3年度に九州歴史資料館が発掘調査を実施することで合意した。八女市教育委員会が実施した試掘調査の結果に基づいて、対象面積は約1,300㎡、幅1.2mの平安時代の溝が確認されたとのことであった。

九州歴史資料館は、令和3年(2021)5月13日に八女県土整備事務所と現地協議を行い条件面等を確認した。6月10日には遺跡の詳細を把握するために、調査区内に4本の試掘溝を掘削して、再度確認調査を行った。そこでは、八女市教育委員会が検出したとされる溝は確認できず、代わりに、調査区北東辺に沿う位置で埋土黒灰色粘質土の溝状の遺構を確認した。



第1図 八女市の位置

## 2. 調査の組織

発掘調査から整理作業、報告書作成にかかる関係者は以下のとおりである。

	令和3年度	令和4年度
九州歴史資料館		
館長	城戸秀明	城戸秀明
副館長	安永千里	吉村靖徳(兼埋蔵文化財調査室長)
総務室長	伊藤幸子	黒岩計光
総務班長	高山美保子	高山美保子
主任主事	小原大輔	古賀知香
	田中佑弥	小原大輔
主事	具志堅靖知	原口美紀
埋蔵文化財調査室長	吉村靖徳	
文化財調査班長	森井啓次	森井啓次
参事補佐	小川泰樹(調査担当)	小川泰樹(整理・報告担当)

## Ⅱ 位置と環境

八女市は、平成の大合併で上陽町、黒木町、立花町、星野村、矢部村を編入して、面積では県内第1位の482.44㎢となった。一方で山地が市域の大半を占め、北部は耳納山地、東部は津江山地、南部は筑肥山地に属し、その間を矢部川と支流の星野川が西流する。両河川が合流するあたりの東側を豊岡台地と称し、西は大きく開けて扇状地となり、現在の八女の市街地を形成すると同時に、筑後平野の一角をなす。今回調査を実施した湯辺田・下柿瀬遺跡は旧黒木町であり、地形的には扇頂部付近にあたる。

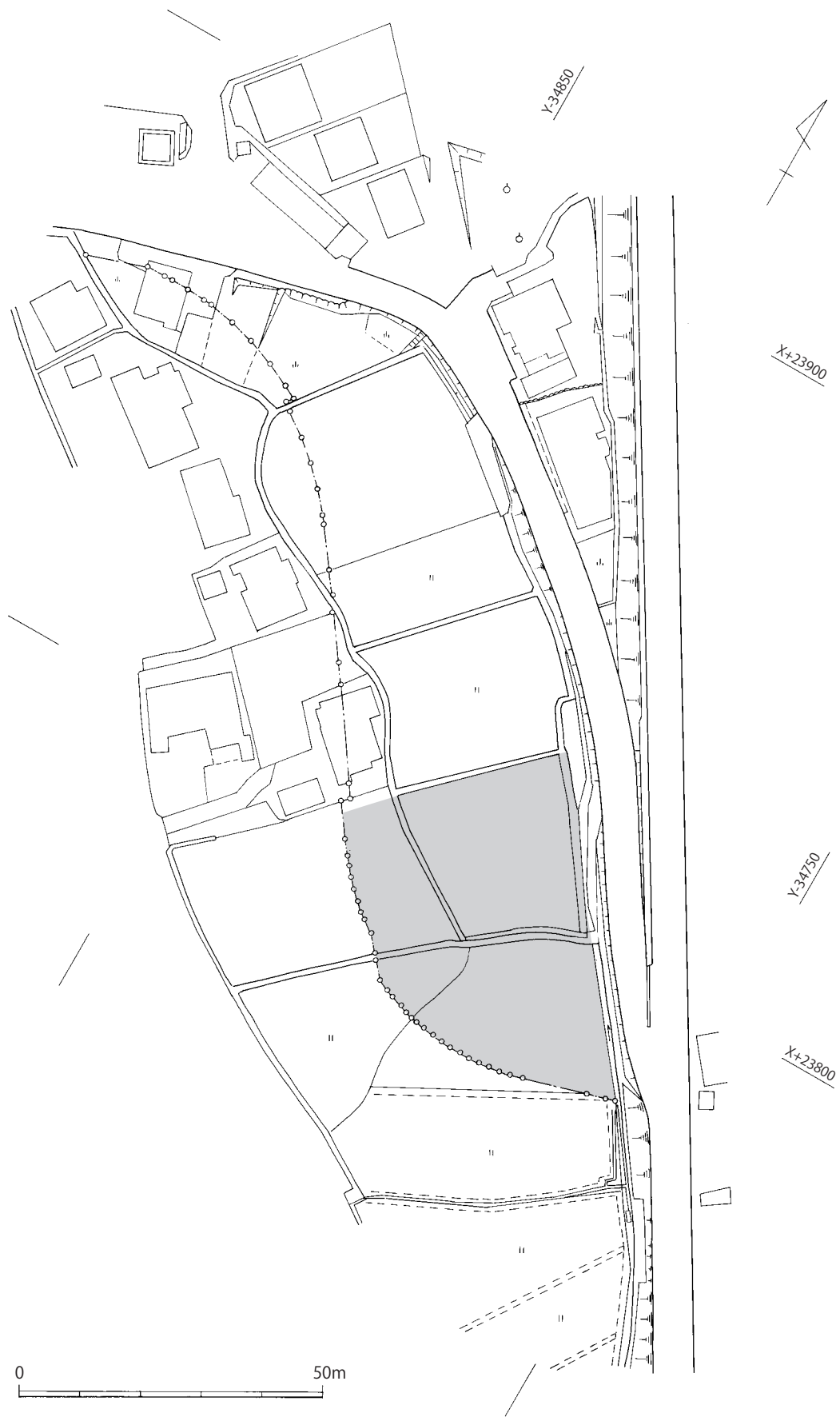
矢部川の扇状地の北側には八女台地が広がり、台地上の広川町・筑後市・八女市の広い範囲に、岩戸山古墳・石人山古墳等の著名な11基の前方後円墳を含む約300基の古墳からなる八女古墳群が大きく広がる。古墳群の東は豊岡台地にまで及び、東端部の長野古墳群は今回の調査地点から台地を隔てた対面の位置にあたるが、現在では長野隧道で繋り至近の距離である。

付近に古代の遺跡は少ないが、瓦陶兼業の田本窯跡群では、平安期から操業を開始しているようである。中世に至って、源助能が黒木盆地の東にあたる城山山頂に猫尾城を築き、黒木姓を名乗って代々の居城としたことで、現代に繋がる黒木の市街地が形成され、やがてこの地域の商業の中心地となっていった。

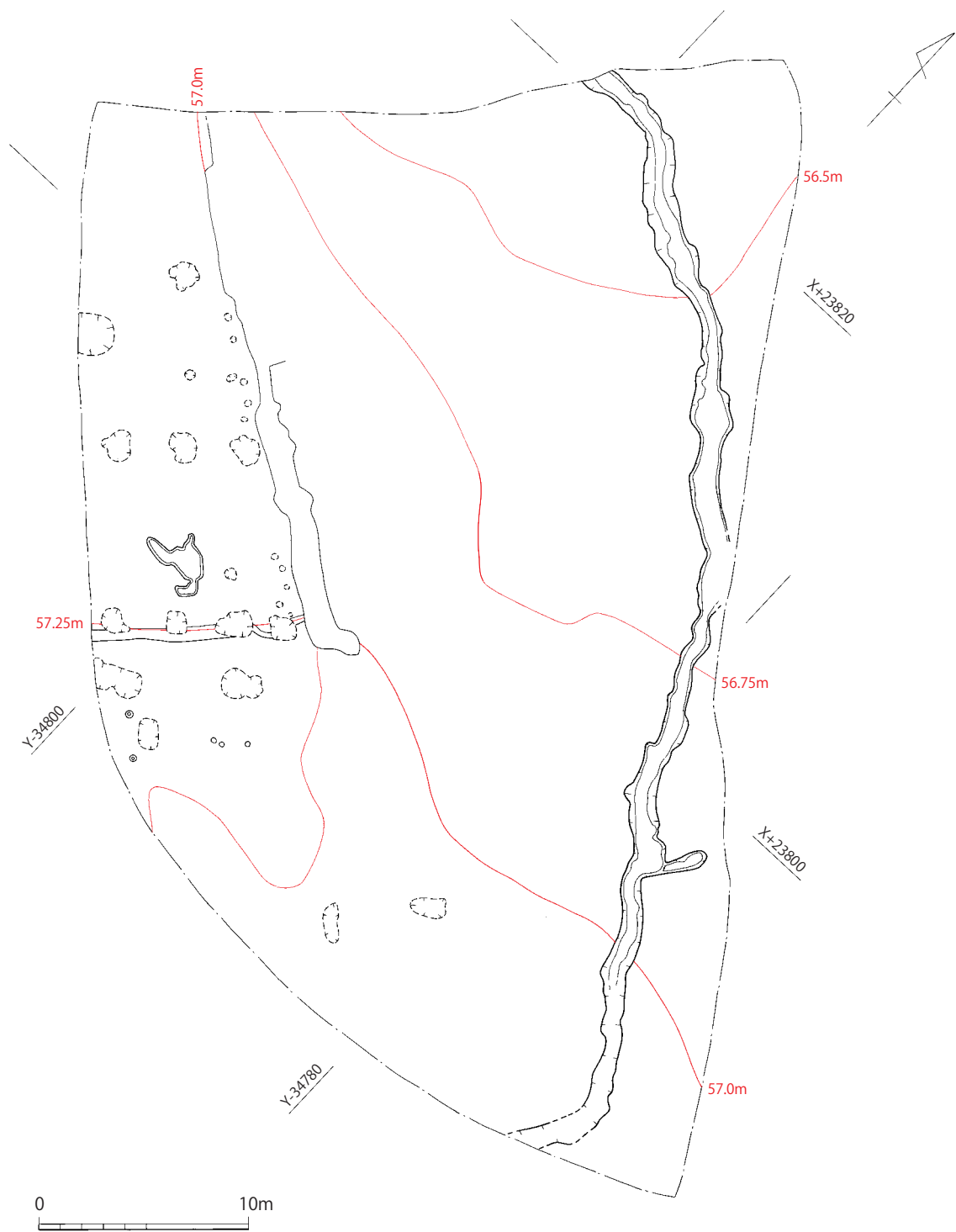


- |              |           |          |          |           |
|--------------|-----------|----------|----------|-----------|
| 1 生駒野城       | 2 長野古墳群   | 3 童男山古墳群 | 4 日迫山古墳群 | 5 柳島遺跡群   |
| 6 榎町遺跡       | 7 帰路女喜古墳群 | 8 柳島古墳群  | 9 城の谷古墳  | 10 北田形古墳群 |
| 11 湯辺田・下柿瀬遺跡 | 12 兎城     | 13 田本窯跡群 | 14 大念塚遺跡 | 15 中原山遺跡  |
| 16 ゾウメキ遺跡    | 17 鷲岳城    | 18 猫尾城   |          |           |

第2図 周辺遺跡分布図 (1/50,000)



第3図 調査範囲図 (1/1,000)



第4図 遺構配置図 (1/300)



## Ⅲ 調査の内容

### 1. 調査の概要

今回の調査地点は、一級河川矢部川上流の右岸にあたり、流れによって開析された谷の小規模な平地上に立地する。現地は現在まで水田として利用されてきた。八女市教育委員会が実施した試掘調査と、表土掘削に先立って行った確認調査の結果から、事業範囲のうち八女市黒木町湯辺田679-1、680-1、749-1、750-1の範囲を調査対象地とした。調査面積は1,300㎡。

令和3年(2021)6月16日から重機による表土掘削作業を開始した。現地は、国道442号とそれに鋭角で取り付く県道795号(湯辺田八女線)を挟んで北東側には豊岡台地の丘陵が迫り、一方の南西側は数十mで矢部川の河川敷に達する、わずかな平坦地部分にあたる。本来、山側から川側に緩やかに傾斜する地形を想定していたが、結果はむしろ逆で、遺構面は南から南西側が高く北から北東側が低い地形であった。

7月1日からは作業員による人力での掘削作業を行った。期間中は雨が多く、調査区の北から北東側の過半部が常時水没している状況が続いた。ことに8月11日から18日にかけては大雨が続き、一時大雨・洪水警報からさらに大雨特別警報が出され、北部九州を中心に西日本・東日本に甚大な被害を出した。

9月16日に全体写真撮影、22日には現地での調査は終了した。翌日から重機による埋め戻し作業を開始し、25日にすべての作業を終了した。

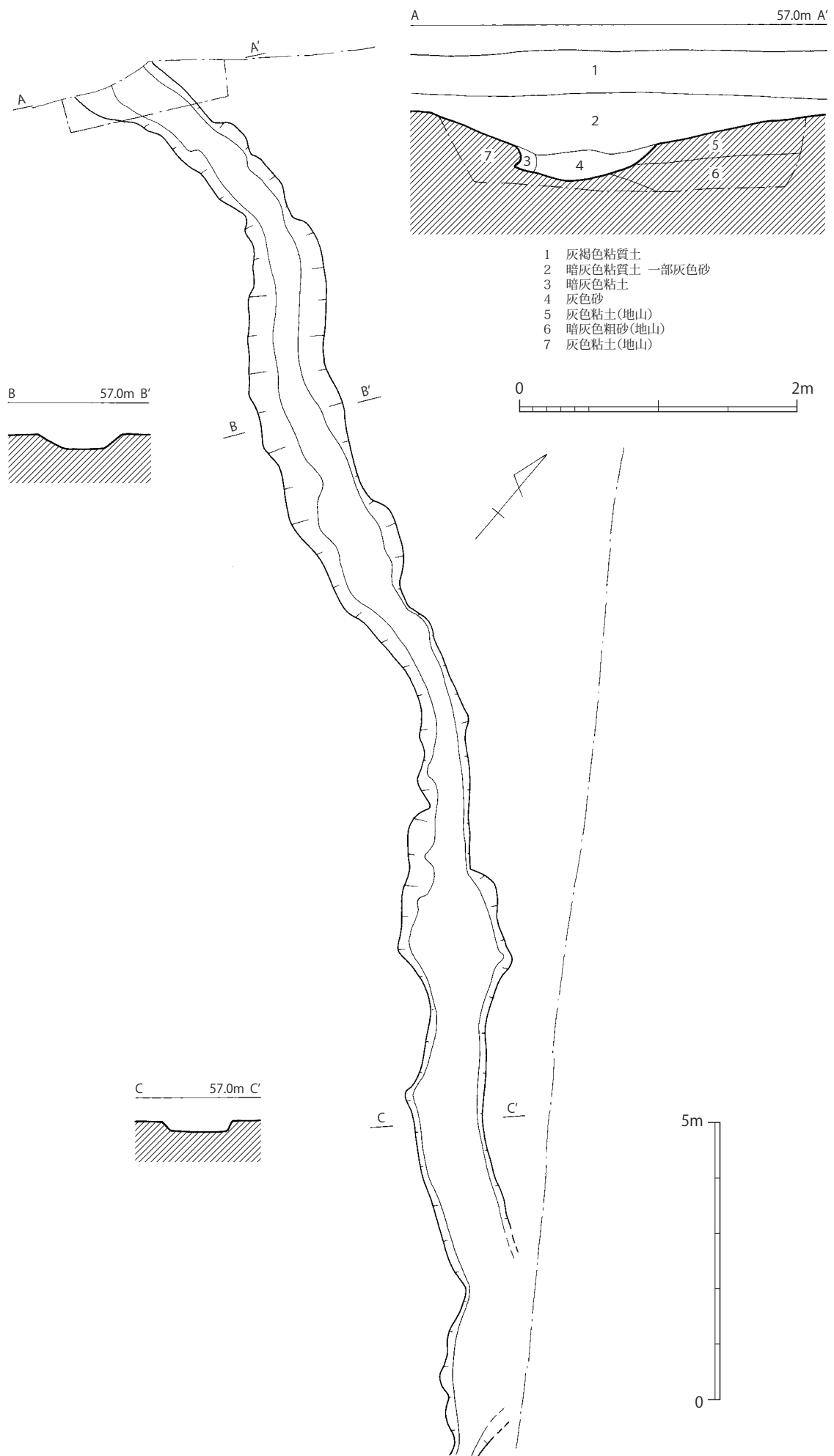
### 2. 遺構と遺物

今回の調査地点は、現在まで水田として利用されてきたため、現状はほぼ水平であった。一方、旧地形は南から南西側が高く北から北東側が低い。南西側は表土が20~30cmと薄く、現地表面からの影響を受けた状況が確認できた。25×10m以上の範囲では10~20cm程度の段を持って方形に区画されており、内部にはある程度規則的に配置された掘り込みがあるが、出土する遺物から何れも近現代のものである。

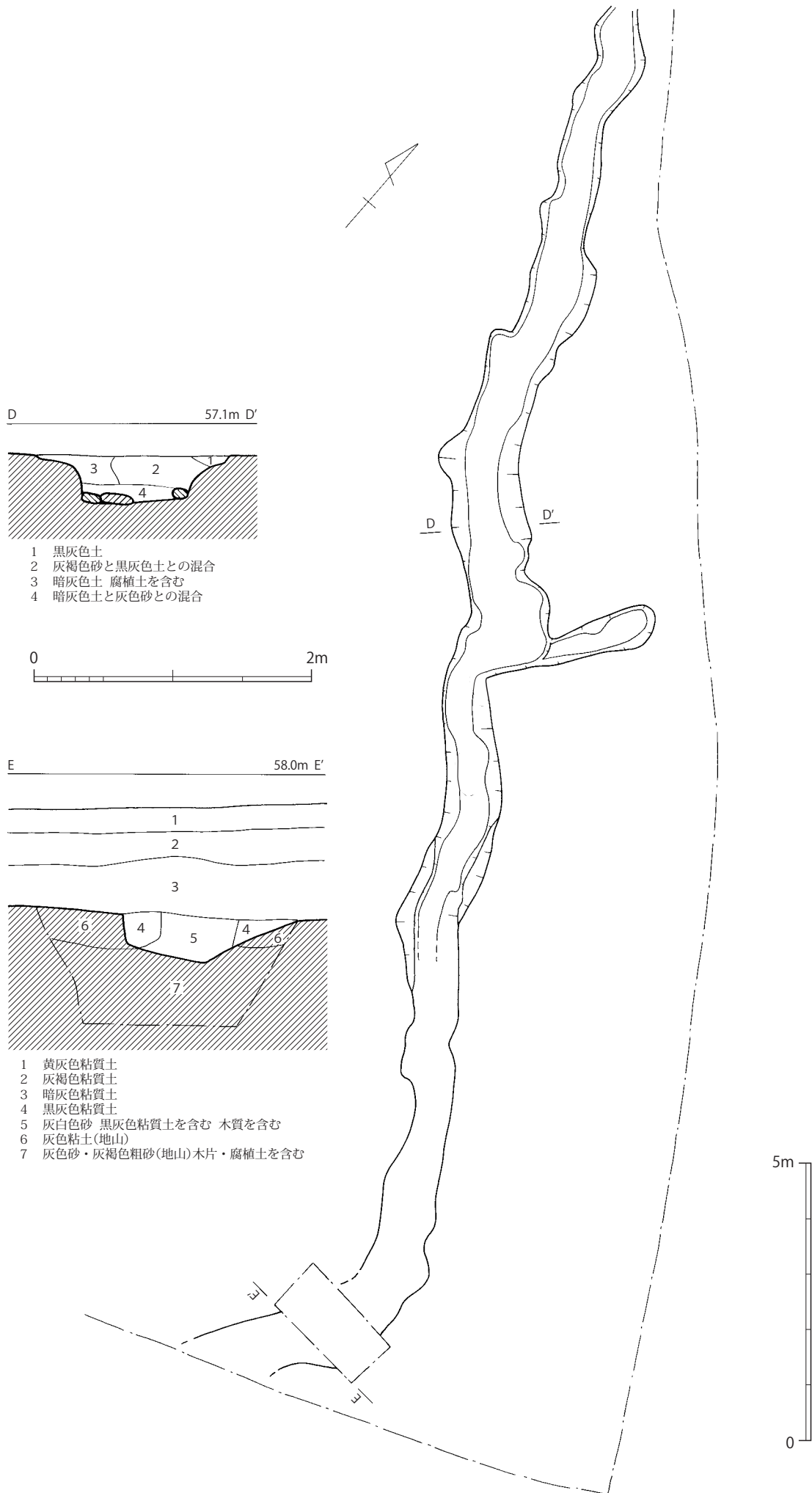
一方の北東側半部は、掘削した表土と堆積土が最大90cmと厚いため、近現代の攪乱等はほぼ受けていないものと考えられた。反面で、こちらは地形が低いため、調査中も常に水が湧き、雨後に水が引かない状況であった。そのため地山は灰色粘質土で、還元色を呈している。

#### 1号溝(図版1~3、第5・6図)

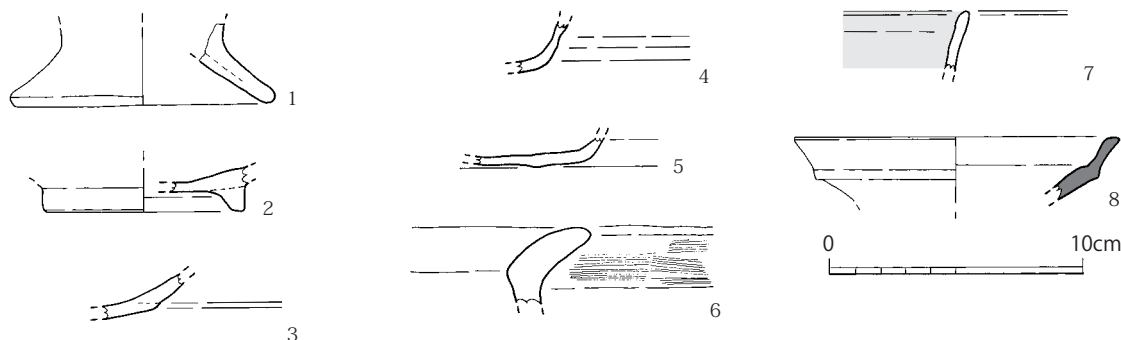
地形的に最も低い調査区北東辺に沿って縦断する形で溝1条を確認した。調査範囲内で約55m分を検出したが、遺構は北西と南の調査区外にさらに延びる。平面形状は、比較的直線的であるが北東側にやや張り出した孤を描く。幅は0.7~2.0m程度で一定せず、深さは北西側が約0.2mと浅く、南東側では約0.4mで比較的深く残存する。南東端の約9mの範囲では、下層の木片・腐植土を含んだ砂層を溝の埋土と勘違いして、調査時に溝底を大きく掘り過ぎてしまった。溝底の比高差は調査区両端部で約0.7mあるため、南東から北西側に水が流れていたものと考えられる。埋土は黒灰色粘質土と砂が部分的に混じり、木質等が含まれる部分もある。また、遺構の南東側約半部では径30cm程度の扁平な川原石が多数認められ、北西半部ではそれがまったく見られない。



第5図 1号溝実測図①(1/100)、土層実測図(1/40)



第6図 1号溝実測図② (1/100)、土層実測図 (1/40)



第7図 1号溝出土遺物実測図 (1/3)

平面形状が一定していないことなどから、溝は人為的に掘削されたものとは必ずしも考えられないが、一方で南東半部の溝内に認められる川原石は、周辺の地山に含まれるものではない。目的は不明ながら、ある程度意図的に投入されたものかと推測される。

#### 出土遺物 (図版3、第7図)

遺物は何れも破片で量も多くはないが、出土するのは遺構南東半部の川原石が混入した範囲に限られた。

1は弥生土器の鉢等の脚部であろう。断面は2層に分かれ、本体の底部を挟み込むように貼付していたようである。胎土には砂粒を多く含む。2～6は土師器。2は杯の高台部で、復元径8.0cm。煤の付着が認められる。3から5は杯あるいは皿であろう。3は底部と体部の境に段を持つ。4・5は底部と体部の境がなだらかで、4は体部中位外面に沈線状の段がある。4は内面にロクロ痕が残り、5は内外面ナデ調整で仕上げる。6は甕の口縁部。7は杯等の口縁部の小破片で、器面は風化している。内面と口唇部外面は灰色～黒灰色、外面は橙褐色で、黒色土器と思われる。8は須恵器で、何らかの脚部の可能性もあるが、灰の被り方からここでは壺類の口頸部として報告する。中位で屈曲して外面に稜を持つ。焼成はやや軟質で、外表面は黒色を呈するが、突出部は剥落が見られる。内面は器面が溶融しており、灰が被る。口径12.9cm。

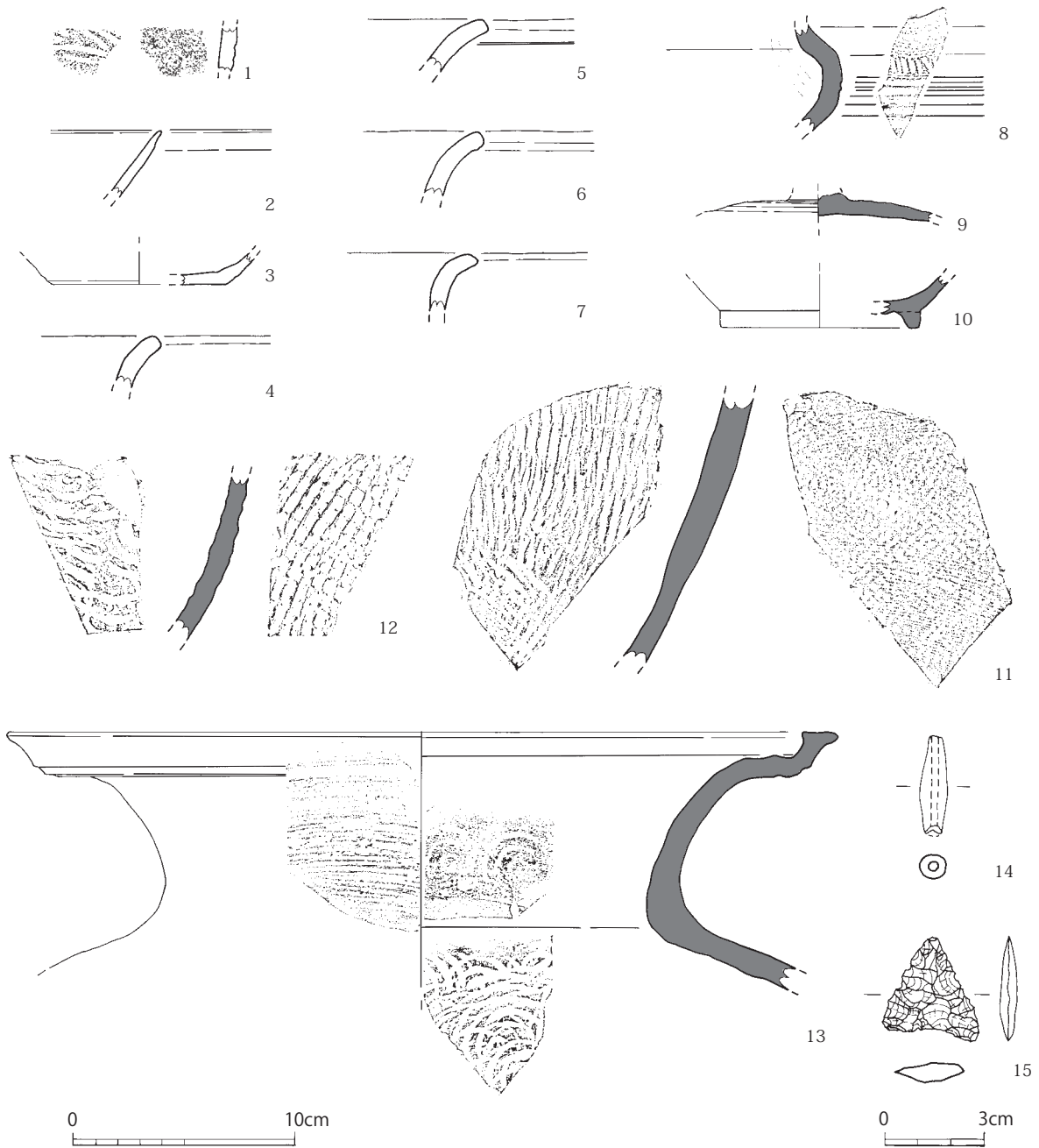
#### 遺構検出面出土遺物 (図版3、第8図)

調査区東部の溝1周辺の遺構検出面の上部には、溝1の埋土と同様の黒灰色粘質土が薄く堆積した部分が数箇所確認できた。それらを掘り下げたところ、古代以前の土器が一定量出土した。遺物の出土場所は、15の石鏃を除いて、1号溝南東半部の周囲に集中している。

1は縄文土器で、沈線文を持ち、胎土には角閃石や雲母を多く含む。2～7は土師器。2・3は杯で、2は体部が直線的で口縁部を薄く仕上げる。3は体部と底部の境部。ともに胎土に砂粒と赤色土粒を含むが、精良で、器面が風化している。4～7は甕の口縁部で、ほぼ同形のもの。器壁が均一で、湾曲して開き、口唇部にはやや角がある。4点とも黄灰色を呈し、砂粒を多く含むが、胎土は比較的精良である。8～13は須恵器。8は壺で、器壁は厚く、中位に2条の沈線を巡らし、その上位に板状工具による刺突文を施す。9は摘みのある杯蓋。外面ヘラケズリ、内面ヨコナデ調整で、内面には墨が付着しているようで転用硯かと思われる。10は杯の高台部で、焼成はやや軟質。復元高台径9.0cm。11～13は甕で、11・12は体部、13は口頸部である。13は頸部下位まで当具痕



が残り、復元口径37.4cm。14は土錘。一端を欠失し、残存長4.4cm、最大幅1.3cm、重さ5.3g。15は石鏃で大形品。両面とも3方向から丁寧な押圧剥離を行い、形状はやや左右非対称となる。石材は黒曜石で漆黑。重さ3.2g。



第8図 遺構検出面出土遺物実測図 (1/3、15は1/2)

## IV おわりに

今回の調査地点は、八女市黒木町湯辺田に所在し、蛇行して流れる矢部川が豊岡台地を開削してできた狭い平地上に立地する。調査の結果、旧地形は当初の予想に反して、山側が低く川側が高くなっていた。調査区の最も低い部分で南東から北西に流れる1条の溝を検出し、出土した遺物から8・9世紀の遺構と考えられる。溝は形状からは必ずしも人為的に掘削されたものとは判断できなかったが、一方で、遺構の南東半部にのみ扁平な川原石が多量に投入されていたこと、溝の内外からの遺物の出土もこの範囲に限られることから判断して、人々の何らかの利用があったものであろう。当時の水利に関わる施設の一端を示すものといえるが、その具体的な目的、方法は不明であり、明らかにし得た情報は限られる。

現在のところ、この付近の古代の状況は充分には知られていない。榎町遺跡（山内）では、古墳時代後期から古代にかけての集落跡が確認された。柳島遺跡群（柳島）でも古代の土器が出土しており、集落遺跡と考えられる。田本窯跡群（黒木町田本）では7基の須恵器窯跡が確認され、うち発掘調査を実施した1号窯跡では瓦も出土しており、9世紀のものであるという（註）。これらは何れも湯辺田・下柿瀬遺跡とは至近の距離にあることから、時期的に重複していれば何らかの関連がある可能性もある。

八女市内でも旧黒木町域は、現在でも開発事業が少なく、このために残ったとも言える八女市黒木重要伝統的建造物群保存地区をはじめとする多彩な文化財が良好な状況で保存されてきている。反面で、発掘調査の成果に頼らざるを得ない古代以前の歴史については、依然として不明な部分が多い。自然と文化が豊かなこの地域の歴史の復元には、今後も長期にわたる資料の蓄積が必要なものと考えられる。

（註）八女市教育委員会 壇佳克氏のご教示による



1号溝掘削作業状況

# 图 版





1 湯辺田・下柿瀬遺跡  
全景（北西から）



2 1号溝（北西から）



3 1号溝北西半部  
（北西から）







1 1号溝南東半部  
(北西から)



2 1号溝北西端部土層  
(南西から)

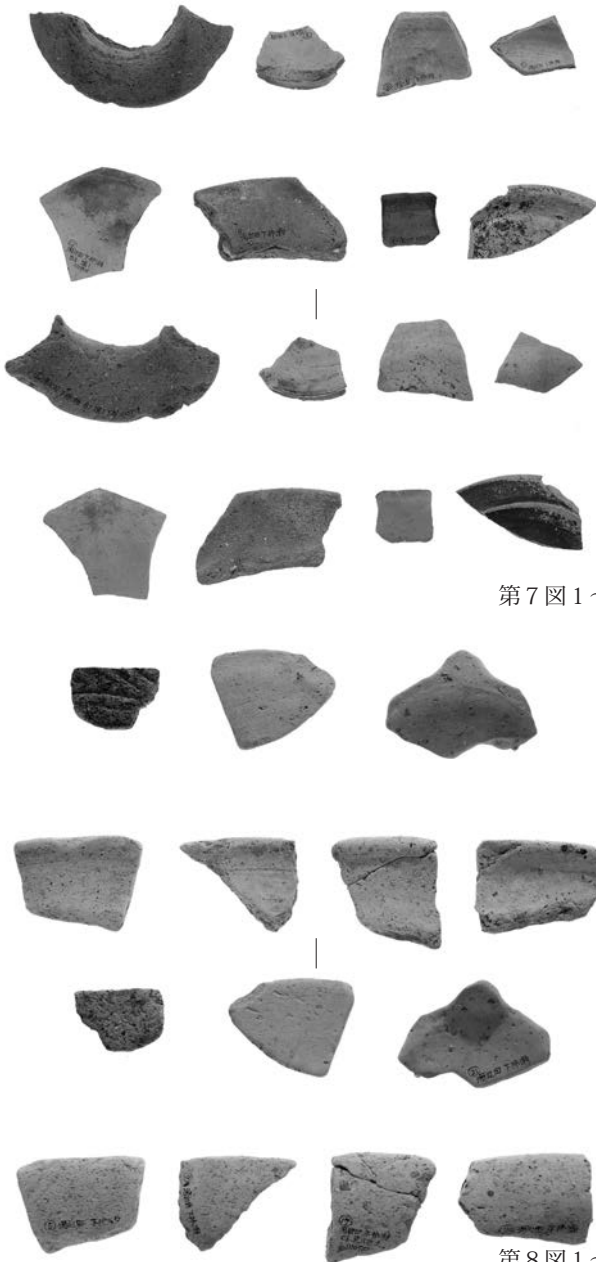


3 1号溝南半部土層  
(南東から)



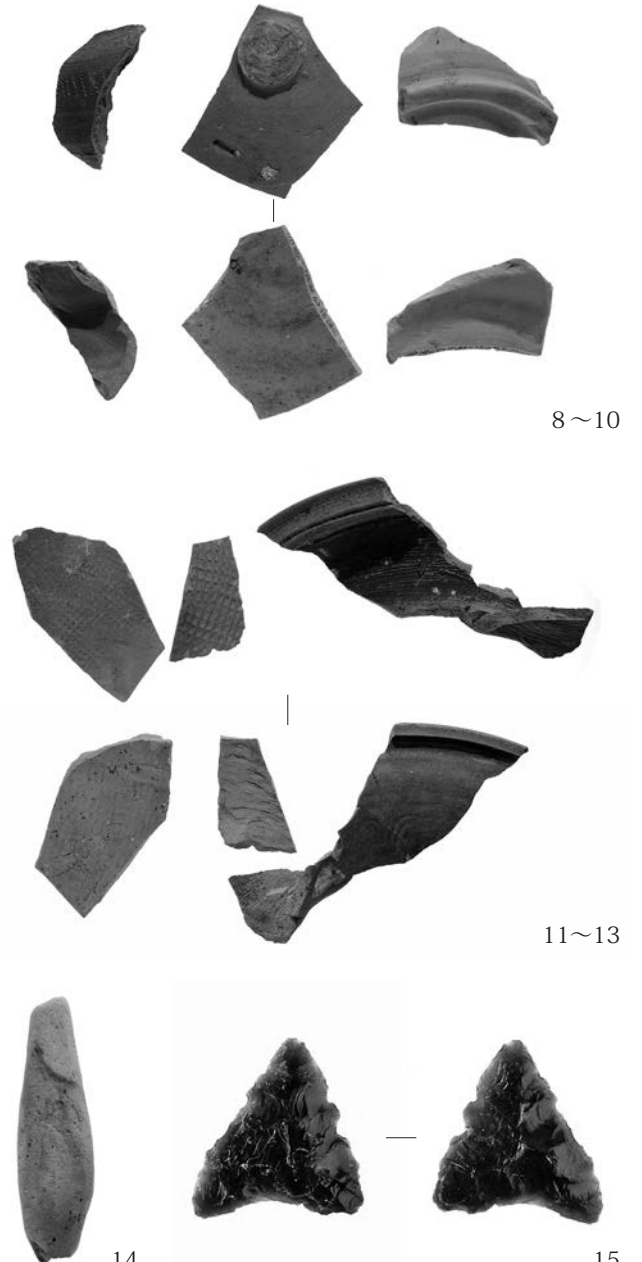


1 1号溝南東端部土層  
(北から)



第7図1～8

第8図1～7



8～10

11～13

14

15

2 出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	ゆべた・しもがきせいせき							
書名	湯辺田・下柿瀬遺跡							
副書名								
シリーズ名	福岡県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第281集							
編著者名	小川泰樹							
編集機関	九州歴史資料館							
所在地	〒836-0106 福岡県小郡市三沢5208-3 TEL 0942-75-9575							
発刊年月日	令和4（2022）年10月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ゆべた しもがきせいせき 湯辺田・下柿瀬遺跡	ふくおかけん や ゆ しくろぎまち ゆ 福岡県八女市黒木町湯 辺田679番地1、680 番地1、749番地1、 750番地1	40216		33° 12' 50"	130° 37' 36"	2021.6.16 ～ 2021.9.27	1,300㎡	道路改良
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
湯辺田・下柿瀬遺跡	集落	古代	溝	土師器、須恵器、土製品、石器		奈良・平安時代の溝を確認した。		

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2120261
登録年度 4	登録番号 3

一般県道湯辺田八女線交差点改良事業関係文化財調査報告
<b>湯辺田・下柿瀬遺跡</b>
福岡県文化財調査報告書 第281集
令和4年10月31日
発行 九州歴史資料館 〒838-0106 福岡県小郡市三沢5208-3
印刷 大同印刷株式会社 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20